

調査報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

訪問調査日 調査実施の時間	平成 20 年 6 月 30 日 開始 10 時 00 分 ~ 終了 14 時 50 分
訪問先事業所名 (都道府県)	グループホーム コスモやよい (大分県)
評価調査員の氏名	氏名 井上 清三 氏名 春山千恵子・清水小百合
事業所側対応者	職名 管理者 (ケアマネージャー) 氏名 川野 さとみ ヒアリングを行った職 2

○項目番号について
外部評価は30項目です。
「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。
この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載します。

○記入方法
[取り組みの事実]
ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。
[取り組みを期待したい項目]
確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけます。
[取り組みを期待したい内容]
「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

○用語の説明
家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
家 族 = 家族に限定しています。
運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 調査報告概要表

作成日 平成20年 7月 3日

【評価実施概要】

事業所番号	4490500099
法人名	有限会社 ケアつかさ
事業所名	グループホーム コスモやよい
所在地	大分県佐伯市弥生大字山梨子828番地 (電話) 46-3288
評価機関名	特定非営利活動法人 第三者評価機構
所在地	大分県大分市顕徳町2丁目1番5号
訪問調査日	平成20年6月28日

【情報提供票より】(平成20年6月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 19 年 7 月 28 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	12 人	常勤 8 人, 非常勤 4 人, 常勤換算	6.6

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1 階建ての	1 階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	3,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000		円

(4) 利用者の概要(6 月 30 日現在)

利用者人数	18 名	男性 7 名	女性 11 名
要介護1	3 名	要介護2	6 名
要介護3	5 名	要介護4	2 名
要介護5	1 名	要支援2	1 名
年齢 平均	82.9 歳	最低	65 歳
		最高	101 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	からしま医院 あなん歯科医院
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは国道10号から入り込んだのどかな田園風景の中で、周りには住宅や小学校もあり、日当たりがよく、自然とのふれあいがスムーズに出来る環境の良い場所に2ユニットのホームが建っています。敷地も広く、多くの来客が来られるようになっている。敷地を囲むフェンスも低く見渡せるようになっていて圧迫感を感じさせない。広い共有スペースでは、職員・利用者による談話や催し物が行われており、職員は利用者と共に緩やかにゆったりとした雰囲気の中で支援している。また、管理者及びスタッフはお互いに協力し合ってケアの質の向上に努めている。日々の記録は1日の生活状況や健康状態等の経過がよくわかるようになっており、内容についても具体的に細かく明記されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>今回が初めての受審ため ナシ。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価を実施することにより、ホームで出来ていること、取組んでないこと、取組む必要性の優先順位などが明確になり、日々の業務をどのように行えばよいのかの目標が映し出される。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2か月に1回開催される運営会議で、ホーム運営上の課題等については、事業者、管理者、利用者、家族、関係者等で積極的に取り組まれておりサービスの質の向上が期待する。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族との面会時に利用者の心身状況や暮らしぶり、金銭、職員の異動など詳しく伝えるようにしています。また問題が起きた時など、急を要す時の連絡方法も整理されています。</p> <p>利用者、家族等が直接申し上げにくいことを事業所・職員に伝える方法を期待する。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域のお祭りに利用者と参加されていますが、一層の地域・住民との交流を期待する。</p>

2. 調査報告書

部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	現在事業所にある理念に添いながら、利用者がその人らしく暮らしていくため管理者、職員一体となり支援に勤めています。理念は、事務所内に掲示されています。	○	平成16年法人の設立に伴い事業主、管理者等で作成されたものです。平成18年の改正に即した、本事業所独自の理念を作られることと、併せて利用者、職員、外来者の目に触れやすい位置に掲示されることを期待します。
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝朝礼のときに、理念を復唱し、その実践の取り組みを行っています。また、職員会議等みんなで集う時には、理念の大切さについて共有しています。		
2. 地域との支え合い					
	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のお祭りなど時々利用者と一緒に出かけています。	○	事業所が自治会などに加入し、回覧板などの配布を受けながら、地域の一員として、地域の行事に積極的に参加し、地域、住民との交流が強くなることを期待します。また広報等を活用しながら事業所の情報を地域に発信できる方法を期待します。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価や外部評価の意義を共有しながら、サービスの充実に努めています。	○	評価は、幹部職員だけでなく全員での取り組みとして位置づけ、また評価で感じた部分、改善計画等は運営者、管理者、職員全体で共用し積極的に取り組まれることを期待します。
	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2か月に一度開催しています。会議で出された課題等については、事業者、管理者、利用者、家族、関係者等で積極的に取り組んでいます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センター以外の市職員との連携はありません。	○	事業所や利用者を理解するため、市職員の実習体験等の場として、また課題等について、その解決方法を市職員を交えて協議できる環境づくりを期待します。
4.理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	利用者の心身状況や暮らしぶりなど、面会時に詳しく伝えるようにしています。また問題が起きた時など、急を要す時の連絡方法も整理されています。金銭、職員の異動など利用者、家族等に定期的に報告しています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に、家族から意見、要望を聞き、その旨を職員会議等で職員に伝え、改善する取り組みをしています。	○	利用者、家族等が直接申し上げにくいことを事業所・職員に伝える方法(例えば意見箱等を設置するなど)を期待します。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が変わる場合、利用者、家族等に説明し理解を得るようにしています。また変わった場合でも出来る限り早く、利用者との馴染みの関係になるよう心掛けています。		
5.人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	機会があれば研修会には、参加出来るように配慮しています。介護職員のスキルアップのための資格取得にも支援しています。	○	職員の年間研修計画を作成し、全職員が交互に研修を受ける環境づくりと共に、外部研修のみでなくテーマを定め内部研修等も積極的に開催することを期待します。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所との同業者との交流は行なわれていません。法人内での同業者とは行事等を通して交流が行われています。	○	他事業所の同業者との積極的な交流を期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	職員が、入所希望者の自宅や入院先等に訪問して面接の機会をもち、家族説明・承認を得てサービス実施にいたります。安心して暮らしができるような声かけを大切に、職員や利用者同士のコミュニケーションを図っています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	共に生活する中で、利用者の得意な事(家事や裁縫、野菜づくり等)の技を学び、自己に反映しながら支えあう関係を築いています	○	利用者と共に、家族的な雰囲気の中でコミュニケーションがとれるようなセッティングや声かけの工夫を期待します。
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中での「独り言・つぶやき」を記録し、職員全員で一人ひとりの利用者の思いを共有し、ケアに活かせる努力をしています。	○	アセスメントの情報を基に、聞こえない利用者の声を尊重しながら、一人ひとりがより自分らしく生活できる環境作りを期待します。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	適切なサービス計画を策定する為に、「利用者の声や家族からの要望」「利用者の心身状態の変化」を大切に、職員それぞれの意見が反映できる介護計画の作成に努めています。	○	利用者の思いの把握と、家族の本意を聞き取り姿勢を大切に、一人ひとりの利用者へ添ったアイデアをあらゆる場面で発揮しながら、職員同士の更なる援助の向上に期待します。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	モニタリングを基に、職員の意見を取り入れながら基本の見直しが行われています。	○	介護計画に実施期間を立て見直しを行うことはもとより、状態の変化に迅速に対応できるような順次見直しや変更を行いながら、柔軟なケアプランの策定に期待がもたれます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院への通院並びに、利用者や家族の意向に即した移送サービスや外泊支援等、安心感が満たされる援助に取り組んでいます。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望する医療が受けられるようにかかりつけ医との関係が保たれ、職員同行での受診または、往診が行なわれています。診察結果は職員間で共有されており、家族への報告も行なわれています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	病状の変化を把握し、主治医との連携や家族への連絡が行なわれています。	○	重度に伴う意思確認書の作成と、家族・医師・看護師等を交えて参画された対応指針作成への取り組みを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者と話をしたり名前を呼ぶときは「さん」を付けて呼ぶなど、人生の先輩として敬う気持ちで接しています。プライバシーの保護、個人情報にはそれぞれの規程を守り支援しています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時間割はなく、自由に自分のペースで過している。買物等本人の希望に添った対応を支援しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	菜園で取れた野菜を使用している。野菜切りや盛り付け等、一緒に行っている。職員は弁当を持ってきている。	○	職員と利用者が同じテーブルで、同じものを食べながら声かけ、見守りをしながらの対応を期待します。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回の入浴となっていますが、希望があればその都度対応しています。個室なのでプライバシーが保たれると共に入浴後には、健康管理の一貫として水分補給など心掛けています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の希望によって、買物、ドライブを出掛けたり、得意なことを活かして、菜園、料理、カラオケ等を楽しんでいます。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外のテラスにイスやテーブルを置きゆったりできるようにしています。散歩、ドライブ等の外出支援も積極的に対応しています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室や玄関に鍵をかけず、出て行こうとする利用者には無理に止めないで、職員が声かけや見守りをしながら対応しています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は、今年度から取り組みます。地域への働きかけは少ない状況です。	○	消防署の指導により、消火器の使用方法や災害時の対応マニュアル、避難道のマップ作成等、早めの対応を期待しています。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量のチェックを毎日行い、一週間の献立を看護師や調理師が計画し、利用者一人ひとりの状況に合わせた食事の対応がされています。	○	利用者が快適に生活を送る中で健康と食事は欠かせないものです。より良い栄養バランスの献立を作るために栄養士による相談、指導を期待します。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を探り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者がいつも利用している、玄関、ロビー、居間などの共用空間には、季節の花や飾り等を行い、快適に過ごせるよう心掛けています。利用者自身にも飾り付けを手伝ってもらいながら楽しい環境づくりを全員で取り組んでいます。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設の備え付けの家具とベットがあり、利用者の馴染みの服や布団は活用されていますが、生活用品などの持ち込みは少ない状況です。	○	家族と相談するなどして利用者の馴染みの物、壁に利用者の好きな絵や写真等も飾って利用者が今まで暮らしてきた環境のままで暮らせる対応を期待します。

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム コスモやよい
(ユニット名)	フルーツ棟
所在地 (県・市町村名)	大分県佐伯市弥生大字山梨子828番地
記入者名 (管理者)	川野 さとみ
記入日	平成 20 年 6 月 10 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑
取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
<input type="checkbox"/>	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
<input checked="" type="checkbox"/>	○理念の共有と日々の取り組み 2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○	理念に添った介護ができるように努めていきたい
<input type="checkbox"/>	○家族や地域への理念の浸透 3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる		
2. 地域との支えあい			
<input type="checkbox"/>	○隣近所とのつきあい 4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	○	普段の挨拶をふくめて近隣の方と顔なじみになり、年齢に関係なく誰でも気軽にホームに立ち寄って職員や入居者と触れ合えるようにしていきたい
<input type="checkbox"/>	○地域とのつきあい 5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	地域の一員として、地区の行事に参加したり、住民との交流の機会を増やしていきたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6 ○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域に貢献できるような取り組みは行っていない	○	地域の行事に職員が手伝いに行ったり、役に立てることがあれば協力していきたい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価や外部評価の意義を職員に知ってもらい、評価の結果を通してサービスの改善に努める。		
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではホームの活動状況や入居者の様子などサービスの概要を伝えて、出席者から意見を出してもらうようにしている		
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所は市の担当者とグループホームについての連絡の他、介護や福祉サービスの情報を交換、共有するなどして連携に努めている		
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度については職員は十分理解できていないと思われる	○	勉強会にて知識を得て、入居者で必要性のある場合には関係者と支援していきたい
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法について職員は十分理解できていない	○	勉強会にて学ぶ機会を持ちたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回の職員会議の中で短時間であるが勉強会をするようにしている。外部の研修会があれば情報を提供して受けれる機会を作っている	○	職員の知識や資質向上のために、研修に参加できる機会を作っていきたい
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流の機会は特にない	○	他事業所との交流の機会があれば参加していきたい
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	運営者は 事業所に立ち寄り、職員の声を聞くように努めている。		
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は事業所に立ち寄り、入居者の様子や職員の勤務状況を把握している。また、職員が向上心を持って働けるように環境を整えるように努めている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居の相談においては、本人の意向をできるだけ聴くようにしている。施設への訪問の他に職員が自宅や入院先等に向いて面接の機会を持ち初期の関係を大切にしている		
24 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居の相談において、家族の思いや意向をできるだけ多く話してもらい、受容の姿勢で対応している。意思疎通のできにくい利用者もいるので家族との面接の時間は大事にしている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の相談に限られているので、他のサービスの検討はしていない	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	グループホームでの雰囲気や生活に早く慣れてもらうために、職員が言葉かけや接し方に配慮して安心してもらうようにしている。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者を介護される立場のみ置かず、謙虚な態度で接し、学ぶ姿勢で関わっている。入居者から生活の知恵など教えてもらうことも多い	○ 職員が入居者と一緒に楽しく、和やかに過ごせるような雰囲気づくりに努めて行く
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居者の日々の暮らしぶりを細かく家族に伝えたり、面会時に家族との間に入り一緒に過ごすことで家族に本人を理解していただけるようにしている	○ 入居者を通じて家族とのコミュニケーションを大切にしていきたい
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族の希望により外出や外泊をされる利用者がいて、その結果ホームで落ち着いた生活が送れている。また、どの家族にも面会してもらえよう努めている	
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	受診時に知人に会いに行く利用者がいる。行きつけの理容院に家族が連れて行ってくれたりもする。本人が暮らしてきた地域での関わりが途絶えないように努めていく	
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員が入居者間の人間関係を把握して、皆が仲良く暮らせるように言葉かけや対応に配慮している。世話好きの入居者もいて、場を和ませてくれたりする。お互いを思いやる姿もみられる	○ 入居者同士が思いやり、支え合って暮らしていけるよう、職員が関わっていきたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p> <p>職員が他の施設へ移られた方に面会に行ったりしている</p>		
1. 一人ひとりの把握			
33	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p> <p>本人がどのような暮らしを望んでいるのか、関わりの中から把握するように努めている</p>		
34	<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p> <p>入居の申し込みの相談時より本人や家族より聞くようにしている。一度では把握できないので、入居後に本人と関わる中で聴いたり、家族から話を聴くようにしている</p>		
35	<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p> <p>日頃の生活動作を見守る中で、入居者一人ひとりの身体状況、生活リズム、得意とすること、できることとできないことなどを把握するように努めている</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p> <p>本人がよりよく暮らせるように、家族の面会時や本人と接する時にどうしてもらいたい、どうしたいかを聞いたり、職員間で話し合ったりして介護計画をつくるようにしている</p>	○	家族や本人と話す機会を多く持ち、思いを聴き取り、利用者本位の介護計画を作っていきたい
37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p> <p>本人の現状にあった介護計画をつくるようにしているが期間が長い場合は本人の状況にあっていない時もある</p>	○	状況に応じた介護計画の見直しをしていきたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のケース記録に生活の様子やケアでの気づきを記録して、情報を共有している	○	職員が記録の重要性を理解して、一人ひとりの様子や変化、気づきなど具体的に記録できるようにする
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の希望を聞いて、安心して暮らせるためにできる限りの支援をしていけるよう努めている		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域資源の協力を得ての支援は行われていない	○	入居者が安心して地域で暮らしていくために、運営推進会議の参加等通じて地域資源の協力を働きかけて行く
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ボランティアによるカラオケや舞踊の慰問等で外部の人と触れ合う機会を持っている		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加してさまざまな情報の交換を行うようにしている		
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族や本人の希望するかかりつけ医で受診をするようにしている。状態から往診をしてもらっている入居者もいる。受診は職員が同行して主治医との連携に努めている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	○	入居者が落ち着いて生活が送れるために医師との関係は必要なので主治医との連携に努めたい
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	○	入居者の健康を守るために、看護職員と介護職員とが協力していきたい
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	重度化や終末期にどのように関わっていくか、事業所全体で考えていく
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	声かけに対しては入居者を尊重するような言葉かけをするよう心がけている。また、ミーティングや職員会議などでも対応について確認するようにしている	○ 職員の入居者に対する言葉かけや接し方に気をつける
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	何事に対しても職員の押しつけにならずに入居者に聞いて決めてもらったり、意見を尊重するようにしている	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や、その人の生活リズムにあわせて無理のない対応をしている	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人や家族の意向を尊重して、家族がなじみの理髪店に連れて行ったり、そうでない人は職員が本人と相談しながらカットしている	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が献立を決めて、菜園で利用者と一緒に採った野菜を使ったりする。下ごしらえや片付けを手伝ってくれる。職員は弁当を持ってきて様子を見守りながら、楽しく食事ができるように言葉かけをしたりしている	○ 毎回楽しい食事になるよう、入居者と一緒に献立を考えたり、作ったりする場面を作っていきたい
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒、たばこを飲む機会はつくっていない。おやつ時間に好きな飲み物を聞いて出したりする	○ 入居者の好みを聞いて嗜好品を楽しむことができるようにしていきたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表や尿意のサインを見て、声かけやトイレ誘導を行いなるべく失禁のないようにしている。失敗した時にはさりげなく片付けて介助している		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に3回、棟ごとに午後入浴している。2, 3人看護師の観察の下午前中に入浴したり、入浴を拒む人にはチームプレイでうまく入れるように工夫して対応している。職員の接し方や言葉かけで気持ちよく入浴できるよう対応している		
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	様子を見て居室や居間のソファで休んでもらったりしている		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	季節毎の行事を取り入れて入居者と職員が一緒に和やかに過ごしている。また、洗濯物をたたんだり、食事の後片付け、調理の下ごしらえなど簡単な家事を手伝ってくれるので感謝の言葉かけをしている。菜園を気にかけてくれて、職員と一緒に簡単な畑仕事をしている入居者もいる		
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者がお金を持つ大切さは理解している。外出時に一緒に買い物に行き、自分でお金を払ってもらう場面を作っている。金銭管理のできる入居者は少ないので所持金は預かっている	○	買い物の機会を作っても、ほとんどの入居者は遠慮する。個別に外出した時などに職員と一緒に支払ったりする場面を作ったりしていきたい
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の体調や気分を考慮して、散歩やドライブ、買い物などに多く出かけるようにしている。少人数ずつ車椅子利用の方も含め、なるべく多くの入居者が出かける機会を作っている	○	社会交流ができるよう外出の機会を増やしていきたい
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	不穏状態になりやすい入居者に対しては本人の思いを聴き、個別に出かけたりしている	○	入居者すべてに対して個別に行きたいところの外出支援ができるようにしていきたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の訴えがあるときは事務所の電話を取り次いだり、手紙を出す準備を手伝ったりしている		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時には居間のソファやテラスで一緒に自由に過ごしてもらっている。職員も交えて日頃の様子などを伝え一緒に話をしたりもする。面会時間は設けておらず、仕事帰りに会いに来られる方もおられる		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者の安全に配慮しながら、身体拘束は行わないという姿勢で日々の介護に取り組んでいる	○	身体拘束に関する勉強会をして、職員すべてがより一層の認識を深めるよう努めていく
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけず自由に入出入りできるようにしている。不穏時に外に出ていく入居者がいるが、職員が様子を把握して声かけ一緒にについていたりしている		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中はホールに職員がいて様子を見守り、記録もホールで行う。夜間は時間毎に見回りをして確認する		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居者の安全に配慮しながら、保管・管理している		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故に関してはヒヤリハットや個々のケース記録にて報告する。ミーティングで情報を職員が共有して、事故防止について検討している		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	月1度の職員会議内での勉強会にて資料で学ぶ機会はあるが、応急手当や救急の訓練は行っていない	○	勉強会や実施訓練等で事故発生時の対応を職員全員が行えるようにする
	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災設備の点検は定期的に行っている。事業所としての避難訓練はまだ行っていない	○	定期的に職員と入居者が一緒に避難訓練を行う
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	転倒など入居者の起こりうるリスクを面会時に家族に話している。また、リスクを防ぐために介護する中で気をつけていることも伝えるようにしている	○	家族の訪問時に入居者の健康状態を伝えて知ってもらうようにする。体調不安定な時は本人の状態や対応の仕方等を連絡する。記録を残す
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝バイタルチェックを行い日頃の状態を把握している。生活動作の様子を観察し、少しでも異常が見られた場合には早期に受診を行う。また、ケースについての記録を残している		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者のファイルに個々の薬の説明書を保管しており、職員が把握できる。また、服用時には本人に手渡し、あるいは介助して飲んだことを確認している		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘にならないよう、食物繊維や野菜を多くとるように献立を工夫している、十分な水分摂取にも努めている。また、排便表をつくり、状況を把握して看護職員の指示のもと対応している	○	看護職員が中心となり、便秘予防に努めていく
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後声かけて口腔ケアを行っている。一人で十分にできない場合は手伝っている。義歯もその都度はずして洗い、就寝時には水につけて保管している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>77</p> <p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>チエックシートに毎食食べた量を記入し、水分記録表で水分摂取量を把握している</p>	○	<p>職員が水分摂取の重要性を認識して、個々の十分な摂取に取り組んでいく</p>
<p>78</p> <p>○感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>感染症マニュアルを作成している。消毒や対応の仕方についてのマニュアルを職員の目につくところに貼り徹底するようにしている</p>	○	<p>年間を通じて感染症を予防するため、職員が意識を持ち取り組んでいく</p>
<p>79</p> <p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>	<p>食中毒予防のため職員や入居者の手洗いを励行している。食材もその都度新鮮なものを購入する。台所の水回りや調理器具、冷蔵庫、カウンター等の整理整頓、清潔を心がけている</p>	○	<p>年間を通じて、食中毒予防に取り組んでいく</p>
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p>			
<p>(1)居心地のよい環境づくり</p>			
<p>80</p> <p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>	<p>建物は木造作りの平屋で安定感がある。周囲には芝生が植えてあり玄関前にはベンチやプランターを置いている</p>		
<p>81</p> <p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居間は食堂を兼ねていて、日中はここで過ごすことが多い。季節毎の花を飾ったり、飾り付けをしたり、写真をはったり、職員と入居者が一緒におこなっている</p>		
<p>82</p> <p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ソファや椅子など置いてあり、入居者がそれぞれ自由に使ってくつろいでいる</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはベッドと整理タンスを設置している。布団は全員持ち込みであるが、ほかになじみのあるものを持って来てる人はあまりいない		
84 ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	職員が利用者に配慮しながらこまめに温度調節を行っている。また居室やトイレに換気扇があるので活用している。入居者が一人で空調を調整する場合には適切な温度であるか、職員が確認する		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーで安全である。各自の身体状況を考慮して、車椅子や歩行器を使用してもらっている。また、移動時には転倒しないよう見守りを行っている		
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	入居者が混乱しないように、職員が言葉かけを多くして安心感を与えている。また、持ち物や衣類には名前を記入して自分の所持品がわかるようにしている。居室のドアには野菜やくだものの表札をつけて混乱を防いでいる		
87 ○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	天気のよい日にはテラスでおやつや昼食を食べたり、外の景色を眺めて楽しんでいる。建物の周囲には芝生や菜園があり、職員と入居者が一緒に野菜を作っている		

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
		○	③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム コスモやよい
(ユニット名)	やさい棟
所在地 (県・市町村名)	大分県佐伯市弥生大字山梨子828番地
記入者名 (管理者)	狩生 弘志
記入日	平成 20 年 6 月 10 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者がその人らしく暮らしていくためには何が大切か、基本理念としている		
<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝朝礼時に基本理念を復唱して、実践に向けて取り組んでいる。また、職員会議やミーティング等折りに触れて理念の大切さを話している	○	理念に添った介護ができるように努めていきたい
3 <input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族には入居の契約時に事業所の基本理念について触れて、理解してもらうようにしている。定期的にホーム便りを発行して訪問者がいつでも見られるようにホーム内に掲示している		
2. 地域との支えあい			
4 <input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	普段の生活の中で近所の方とは挨拶や言葉かけをしている。また、農作業をしている方に声をかけて、入居者と一緒にお茶を飲んだり、話をしたりすることもある。地域に住む職員の声かけで近所の方が気軽に立ち寄ってもらえるような雰囲気を作られている	○	普段の挨拶をふくめて近隣の方と顔なじみになり、年齢に関係なく誰でも気軽にホームに立ち寄って職員や入居者と触れ合えるようにしていきたい
<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の祭りで神楽を見に行き楽しんだ。地域に住む職員が声かけしてくれる	○	地域の一員として、地区の行事に参加したり、住民との交流の機会を増やしていきたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p> <p>地域に貢献できるような取り組みは行っていない</p>	○	地域の行事に職員が手伝いに行ったり、役に立てることがあれば協力していきたい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	自己評価や外部評価の意義を職員に知ってもらい、評価の結果を通してサービスの改善に努める。		
<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	運営推進会議ではホームの活動状況や入居者の様子などサービスの概要を伝えて、出席者から意見を出してもらっている		
<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	事業所は市の担当者とグループホームについての連絡の他、介護や福祉サービスの情報を交換、共有するなどして連携に努めている		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p> <p>権利擁護に関する制度については職員は十分理解できていないと思われる</p>	○	勉強会にて知識を得て、入居者で必要性のある場合には関係者と支援していきたい
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p> <p>高齢者虐待防止関連法について職員は十分理解できていない</p>	○	勉強会にて学ぶ機会を持ちたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
<p>19</p> <p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>月1回の職員会議の中で短時間であるが勉強会をするようにしている。外部の研修会があれば情報を提供して受けれる機会を作っている</p>	○	<p>職員の知識や資質向上のために、研修に参加できる機会を作りたい</p>
<p>20</p> <p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>同業者との交流の機会は特にな</p>	○	<p>他事業所との交流の機会があれば参加していきたい</p>
<p>21</p> <p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>運営者は 事業所に立ち寄り、職員の声を聞くように努めている。</p>		
<p>22</p> <p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>運営者は事業所に立ち寄り、入居者の様子や職員の勤務状況を把握している。また、職員が向上心を持って働けるように環境を整えるように努めている</p>		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
<p>23</p> <p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居の相談においては、本人の意向をできるだけ聴くようにしている。施設への訪問の他に職員が自宅や入院先等に向いて面接の機会を持ち初期の関係を大切にしている</p>		
<p>24</p> <p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居の相談において、家族の思いや意向をできるだけ多く話してもらい、受容の姿勢で対応している。意思疎通のできない利用者もいるので家族との面接の時間は大事にしている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」ま ず必要としている支援を見極め、他のサービ ス利用も含めた対応に努めている</p> <p>入居の相談に限られているので、他のサービスの検討はして いない</p>		
26	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用 するために、サービスをいきなり開始するの ではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気 に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工 夫している</p> <p>グループホームでの雰囲気や生活に早く慣れてもらうため に、職員が言葉かけや接し方に配慮して安心してもらうよう にしている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におか ず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本 人から学んだり、支えあう関係を築いている</p> <p>入居者を介護される立場のみ置かず、謙虚な態度で接し、 学ぶ姿勢で関わっている。入居者から生活の知恵など教え てもらったことも多い</p>	○	職員が入居者と一緒に楽しく、和やかに過ごせるような雰 囲気づくりに努めて行く
28	<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におか ず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えて いく関係を築いている</p> <p>入居者の日々の暮らしぶりを細かく家族に伝えたり、面会時 に家族との間に入り一緒に過ごすことで家族に本人を理解し ていただけるようにしている</p>	○	入居者を通じて家族とのコミュニケーションを大切にしてい きたい
29	<p>○本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努 め、より良い関係が築いていけるように支援し ている</p> <p>家族の希望により外出や外泊をされる利用者がいて、その結 果ホームで落ち着いた生活が送れている。また、どの家族に も面会してもらえよう勧めている</p>		
30	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や 場所との関係が途切れないよう、支援に努め ている</p> <p>受診時に知人に会いに行く利用者がいる。行きつけの理容 院に家族が連れて行ってくれたりもする。本人が暮らしてきた 地域での関わりが途絶えないように努めていく</p>		
31	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤 立せずに利用者同士が関わり合い、支え合え るよう努めている</p> <p>職員が入居者間の人間関係を把握して、皆が仲良く暮らせ るよう言葉かけや対応に配慮している。世話好きの入居者 もいて、場を和ませてくれたりする。お互いを思いやる姿もみ られる</p>	○	入居者同士が思いやり、支え合って暮らしていけるよう、職 員が関わっていききたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	職員が他の施設へ移られた方に面会に行ったりしている		
1. 一人ひとりの把握			
33 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人がどのような暮らしを望んでいるのか、関わりの中から把握するように努めている		
34 ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の申し込みの相談時より本人や家族より聞くようにしている。一度では把握できないので、入居後に本人と関わる中で聴いたり、家族から話を聴くようにしている		
35 ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日頃の生活動作を見守る中で、入居者一人ひとりの身体状況、生活リズム、得意とすること、できることやできないことなどを把握するように努めている		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人がよりよく暮らせるように、家族の面会時や本人と接する時にどうしてもらいたいか、どうしたいかを聞いたり、職員間で話し合ったりして介護計画をつくるようにしている	○	家族や本人と話す機会を多く持ち、思いを聴き取り、利用者本位の介護計画を作っていきたい
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	本人の現状にあった介護計画をつくるようにしているが期間が長い場合は本人の状況にあっていない時もある	○	状況に応じた介護計画の見直しをしていきたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のケース記録に生活の様子やケアでの気づきを記録して、情報を共有している	○	職員が記録の重要性を理解して、一人ひとりの様子や変化、気づきなど具体的に記録できるようにする
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の希望を聞いて、安心して暮らせるためにできる限りの支援をしていけるよう努めている		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域資源の協力を得ての支援は行われていない	○	入居者が安心して地域で暮らしていくために、運営推進会議の参加等通じて地域資源の協力を働きかけて行く
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ボランティアによるカラオケや舞踊の慰問等で外部の人と触れ合う機会を持っている		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加してさまざまな情報の交換を行うようにしている		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族や本人の希望するかかりつけ医で受診をするようにしている。状態から往診をしてもらっている入居者もいる。受診は職員が同行して主治医との連携に努めている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	○	入居者が落ち着いて生活が送れるために医師との関係は必要なので主治医との連携に努めたい
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	○	入居者の健康を守るために、看護職員と介護職員とが協力していきたい
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	重度化や終末期にどのように関わっていくか、事業所全体で考えていく
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	声かけに対しては入居者を尊重するような言葉かけをするよう心がけている。また、ミーティングや職員会議などでも対応について確認するようにしている	○	職員の入居者に対する言葉かけや接し方に気をつける
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	何事に対しても職員の押しつけにならずに入居者に聞いて決めてもらったり、意見を尊重するようにしている		
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や、その人の生活リズムにあわせて無理のない対応をしている		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人や家族の意向を尊重して、家族がなじみの理髪店に連れて行ったり、そうでない人は職員が本人と相談しながらカットしている		
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が献立を決めて、菜園で利用者と一緒に採った野菜を使ったりする。下ごしらえや片付けを手伝ってくれる。職員は弁当を持ってきて様子を見守りながら、楽しく食事ができるように言葉かけをしたりしている	○	毎回楽しい食事になるよう、入居者と一緒に献立を考えたり、作ったりする場面を作っていきたい
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒、たばこを飲む機会はつくっていない。おやつのお時間に好きな飲み物を聞いて出したりする	○	入居者の好みを聞いて嗜好品を楽しむことができるようにしていきたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表や尿意のサインを見て、声かけやトイレ誘導を行いなるべく失禁のないようにしている。失敗した時にはさりげなく片付けて介助している		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に3回、棟ごとに午後入浴している。2、3人看護師の観察の下午前中に入浴したり、入浴を拒む人にはチームプレイでうまく入れるように工夫して対応している。職員の接し方や言葉かけで気持ちよく入浴できるよう対応している		
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	様子を見て居室や居間のソファで休んでもらったりしている		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	季節毎の行事を取り入れて入居者と職員と一緒に和やかに過ごしている。また、洗濯物をたたんだり、食事の後片付け、調理の下ごしらえなど簡単な家事を手伝ってくれるので感謝の言葉かけをしている。菜園を気にかけてくれて、職員と一緒に簡単な畑仕事をしている入居者もいる		
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者がお金を持つ大切さは理解している。外出時に一緒に買い物に行き、自分でお金を払ってもらおう場面を作っている。金銭管理のできる入居者は少ないので所持金は預かっている	○	買い物の機会を作っても、ほとんどの入居者は遠慮する。個別に外出した時などに職員と一緒に支払ったりする場面を作ったりしていきたい
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の体調や気分を考慮して、散歩やドライブ、買い物などに多く出かけるようにしている。少人数ずつ車椅子利用の方も含め、なるべく多くの入居者が出かける機会を作っている	○	社会交流ができるよう外出の機会を増やしていきたい
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	不穏状態になりやすい入居者に対しては本人の思いを聴き、個別に出かけたりしている	○	入居者すべてに対して個別に行きたいところの外出支援ができるようにしていきたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の訴えがあるときは事務所の電話を取り次いだり、手紙を出す準備を手伝ったりしている		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時には居間のソファやテラスと一緒に自由に過ごしてもらっている。職員も交えて日頃の様子などを伝え一緒に話をしたりもする。面会時間は設けておらず、仕事帰りに会いに来られる方もおられる		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者の安全に配慮しながら、身体拘束は行わないという姿勢で日々の介護に取り組んでいる	○	身体拘束に関する勉強会をして、職員すべてがより一層の認識を深めるよう努めていく
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけず自由に出入りできるようにしている。不穏時に外に出ていく入居者がいるが、職員が様子を把握して声かけ一緒についていたりしている		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中はホールに職員がいて様子を見守り、記録もホールで行う。夜間は時間毎に見回りをして確認する		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居者の安全に配慮しながら、保管・管理している		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故に関してはヒヤリハットや個々のケース記録にて報告する。ミーティングで情報を職員が共有して、事故防止について検討している		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	○	勉強会や実施訓練等で事故発生時の対応を職員全員が行えるようにする
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	○	定期的に職員と入居者が一緒に避難訓練を行う
72	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている</p>	○	家族の訪問時に入居者の健康状態を伝えて知ってもらうようにする。体調不安定な時は本人の状態や対応の仕方等を連絡する。記録を残す
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>		
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>		
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	○	看護職員が中心となり、便秘予防に努めていく
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	チエックシートに毎食食べた量を記入し、水分記録表で水分摂取量を把握している	○	職員が水分摂取の重要性を認識して、個々の十分な摂取に取り組んでいく
78	<p>○感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	感染症マニュアルを作成している。消毒や対応の仕方についてのマニュアルを職員の目につくところに貼り徹底するようにしている	○	年間を通じて感染症を予防するため、職員が意識を持ち取り組んでいく
79	<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>	食中毒予防のため職員や入居者の手洗いを励行している。食材もその都度新鮮なものを購入する。台所の水回りや調理器具、冷蔵庫、カウンター等の整理整頓、清潔を心がけている	○	年間を通じて、食中毒予防に取り組んでいく
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>	建物は木造作りの平屋で安定感がある。周囲には芝生が植えてあり玄関前にはベンチやプランターを置いている		
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	居間は食堂を兼ねていて、日中はここで過ごすことが多い。季節毎の花を飾ったり、飾り付けをしたり、写真をはったり、職員と入居者が一緒におこなっている		
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	ソファーや椅子など置いてあり、入居者がそれぞれ自由に使ってくつろいでいる		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>83</p> <p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室にはベッドと整理ダンスを設置している。布団は全員持ち込みであるが、ほかになじみのあるものを持って来ている人はあまりいない</p>		
<p>84</p> <p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>職員が利用者に配慮しながらこまめに温度調節を行っている。また居室やトイレに換気扇があるので活用している。入居者が一人で空調を調整する場合には適切な温度であるか、職員が確認する</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
<p>85</p> <p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>ホーム内はバリアフリーで安全である。各自の身体状況を考慮して、車椅子や歩行器を使用してもらっている。また、移動時には転倒しないよう見守りを行っている</p>		
<p>86</p> <p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>入居者が混乱しないように、職員が言葉かけを多くして安心感を与えている。また、持ち物や衣類には名前を記入して自分の所持品がわかるようにしている。居室のドアには野菜やくだものの表札をつけて混乱を防いでいる</p>		
<p>87</p> <p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>天気のよい日にはテラスでおやつや昼食を食べたり、外の景色を眺めて楽しんでいる。建物の周囲には芝生や菜園があり、職員と入居者が一緒に野菜を作っている</p>		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="checkbox"/>	①ほぼ全ての利用者の
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="checkbox"/>	①ほぼ毎日のように
		<input type="checkbox"/>	②数日に1回程度
		<input checked="" type="checkbox"/>	③たまに
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="checkbox"/>	①大いに増えている
		<input checked="" type="checkbox"/>	②少しずつ増えている
		<input type="checkbox"/>	③あまり増えていない
		<input type="checkbox"/>	④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="checkbox"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input checked="" type="checkbox"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="checkbox"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input checked="" type="checkbox"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="checkbox"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input checked="" type="checkbox"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)